

生乳の需給等に係る情報交換会（第6回）議事概要

開催日時：令和6年7月12日（金）13:30～15:00

開催場所：対面・web ハイブリッド会議

出席者：別添参照

議事概要：

（1）令和6年度の生乳及び牛乳乳製品の需給動向

一般社団法人Jミルクから、令和6年度の生乳及び牛乳乳製品の需給見通し、牛乳・はっ乳の販売動向について説明。

（2）各事業者からの発表内容の一例

① 年末年始・年度末の不需要期の対応

- 生乳生産見通しや乳業者の買入計画に基づく乳製品処理必要量を集約し、全国連や乳業メーカーと共有し、連携して対応。
- 乳業・CSのタンクのフル活用と加工工場のフル稼働を要請。
- 不需要期の余乳発生量を予測した上で、適切に加工に仕向け。
- 年末年始・年度末を期間限定とした消費拡大喚起対策と酪農理解醸成。
- 需給動向・見通しによっては、生産者に全乳哺育、早期乾乳等の要請を検討。

② 不需要期対応上の課題

- 自主流通による道外移出生乳の増加と都府県の乳製品向け処理能力の低下により、コア期間における調整が困難になってきている。
- 業界全体で対応に当たる必要がある。
- 分娩のずれに伴い、年末に向けて例年以上に生産が増加する可能性があり、注意が必要。

（3）発表事項に係る意見交換

① 年末年始・年度末の不需要期の対応関係

（農水省）不需要期において乳業者と調整を行うために、どのような体制が必要か。

（ホクレン）乳業とは毎月生産見通し・用途別販売計画を共有している。そこで見込まれる脱脂粉乳・バター向け数量を基に、処理計画の調整を図ってもらっている。特に不需要期のコア期間は、早い段階から日ごとの計画も取りまとめ共有し、数字を確認しながら

ら対応を図っている。

② 牛乳の小売価格と消費量の動向関係

(農水省) 牛乳の小売価格の差がどの段階で生まれているかわかっているか。

(関東販連) 価格の差が何に起因するのかを共通認識とし、議論することが必要だと考える。

(農水省) 道外に卸している価格とほかの指定団体から出てくる価格に大きい差はあると感じているか。

(ちえのわ) 違いはない。飲用価格は決まっており、距離がある場合は運賃を考慮すると、北海道の生産地段階では都府県よりもマイナスになる。道外に移出するのは輸送費の影響が大きい。

(Milk Net) 生産者からの買い取り価格はホクレンよりも若干高く買い取っている。乳業に卸す価格は安売りしていない。輸送費がネックになるため、自社物流を行い、コストを下げることで生産者の手取り価格を上げている。

(牛乳の小売価格は) 乳業の納品価格というよりは、小売の経営戦略の違いではないかと感じている。

(農水省) 九州には北海道から安価な牛乳が入ってきているとのことだが、輸送費もかかっているはずなのになぜ価格差が生じているかについて把握、分析できているか。

(九州販連) コストの根拠について把握は出来ていない。

(農水省) 年末年始・年度末の不需要期の対応については、引き続き議論していきたい。

以上